



2018/19コーヒー年度は2年連続の供給過剰見込み

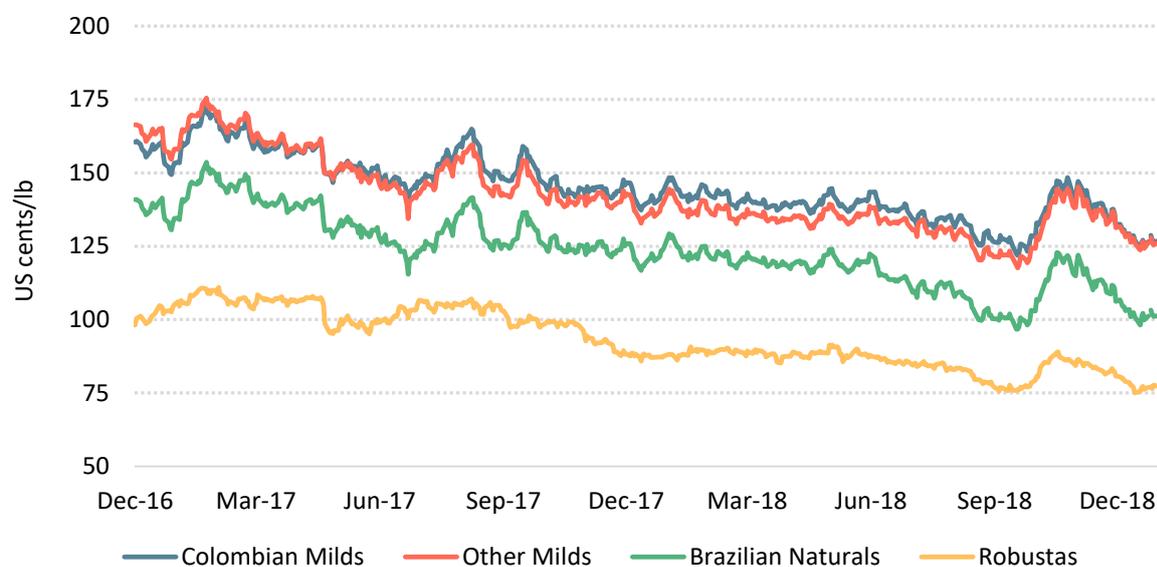
2018/19コーヒー年度は、世界の総生産量推定167.47百万袋に対して総消費量推定は165.18百万袋であり2年連続の供給過剰が見込まれている。ただし、旺盛な需要動向から超過数量は2.29百万袋と予想され前年2017/18年度の超過数量より約1百万袋少ない。供給量の超過は向こう数ヶ月にわたり国際コーヒー価格の下げ圧力となる。2018年11月に1.5%下げの109.59米セント/ポンドを付けた後、ICO複合指標価格の月次平均は大幅に下落し12月に100.61米セント/ポンドを付けた。グループ指標価格のすべてが下落し最大の下落はブラジルナチュラルとコロンビアマイルドでそれぞれ9.9%下げの102.10米セント/ポンド、8.2%下げの127.86米セント/ポンドを付けた。アザーマイルドは7.3%下げて127.10米セント/ポンドをつけコロンビアマイルドとの価格差は12月に0.76米セント/ポンドまで縮小した。ロブスタは7.1%下げの77.57米セント/ポンドだった。

図 1: ICO日次複合指標価格



2018年12月、ICO複合指標価格の月次平均は8.2%下げて100.61米セント/ポンドを付けた。日次複合指標価格は月初104.59米セント/ポンドの高値で寄り付いたが12月18日に97.59米セント/ポンドまで下落した。第一週以降は100米セント/ポンドを中心に4米セント/ポンド幅で揉み合い。2018/19コーヒー年度は供給が超過すると予想されており、その超過数量は2017/18年度よりは少ないものの依然として国際コーヒー価格への下げ圧力である。

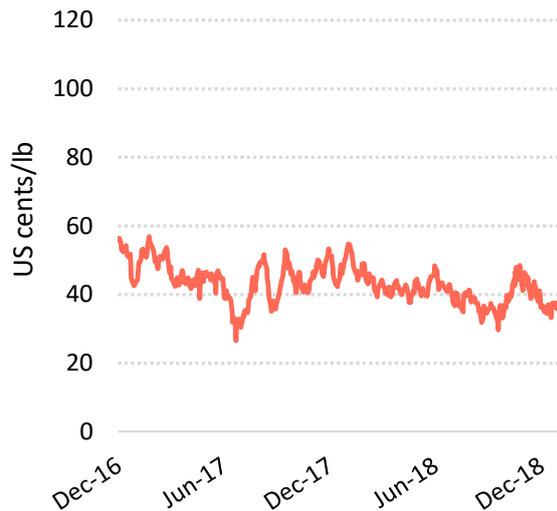
図 2: ICO グループ指標価格



© 2018 International Coffee Organization (www.ico.org)

2018年12月、全てのグループ指標価格が前月に対して大幅に下落した。最大の下落はブラジルナチュラルとコロンビアマイルドでそれぞれ9.9%下げの102.10米セント/ポンドと8.2%下げの127.86米セント/ポンドである。アザーマイルドは7.3%下げて127.10米セント/ポンド、一方ロブスタは7.1%下げの77.57米セント/ポンドだった。コロンビアマイルドの大幅な下落の結果、アザーマイルドとの価格差は64.8%減少し0.76米セント/ポンドまで縮小した。2018年後半、コロンビアはホンジュラスなどのアザーマイルド生産国と比較して、より大幅な対米ドル通貨下落に見舞われ、これがコロンビアマイルドとアザーマイルドの価格差を著しく縮小させている。ニューヨークとロンドンの先物市場で測定される12月の平均アービトラージは13.5%減少して36.20米セント/ポンドとなったが2ヶ月連続の減少である。また、ICO複合指標価格の価格変動率 (intra-day volatility) は1.6ポイント減少して6.9%となったが、これは全てのグループ指標価格の価格変動率が減少したためである。

図 3: ニューヨークとロンドン先物市場のアービトラージ



© 2018 International Coffee Organization (www.ico.org)

図 4: ICO複合指標価格の30日移動平均価格変動率



© 2018 International Coffee Organization (www.ico.org)

2018年11月の世界コーヒー輸出量は9.88百万袋に達し、2017年11月の9.35百万袋に対して5.7%増加した。アザーマイルドを除く全グループの輸出量が前年同月対比で増加している。2018/19コーヒー年度当初2ヶ月のアラビカ輸出量は2017/18年度対比13.2%増の13.84百万袋で、ブラジルナチュラルの増加が最も大きく24.8%増の7.92百万袋、コロンビアマイルドは2%増の2.52百万袋、一方アザーマイルドは0.4%減の3.39百万袋だった。ロブスタは18.1%増の7.1百万袋である。

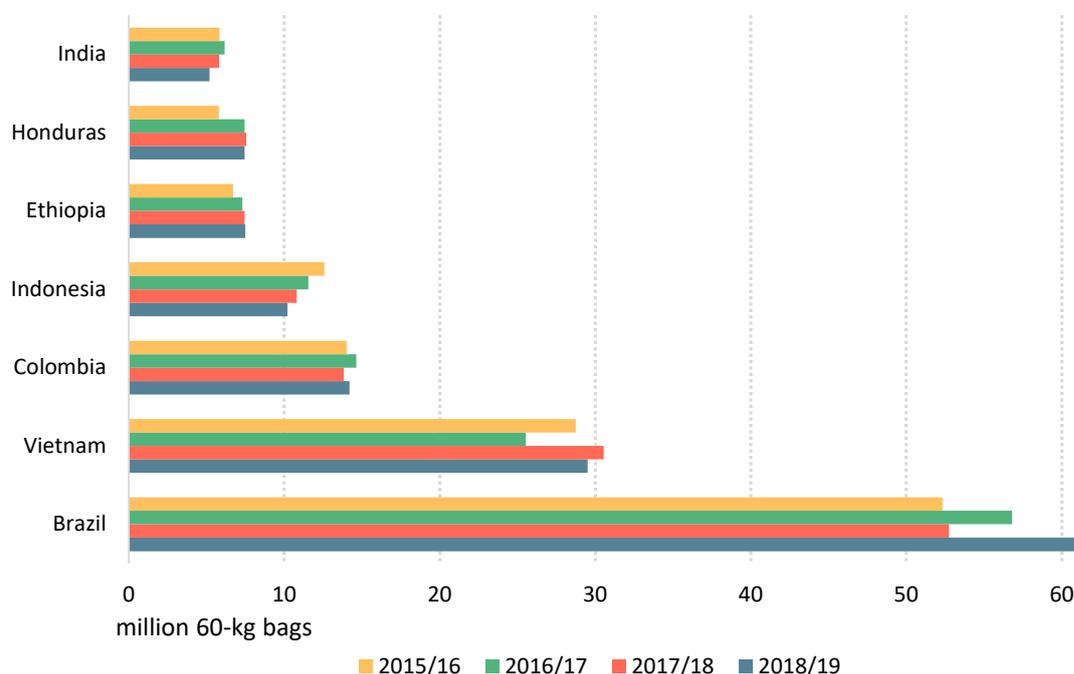
2017年10月から2018年9月までの世界コーヒー生産量統計は改定され1.5百万袋増の164.99百万袋へ上方修正された。2018/19年度の世界コーヒー生産量の推計は167.47百万袋であり2017/18年度対比1.5%増である。アラビカの実産量は2.5%増の104.01百万袋と見込まれるが、その一方、ロブスタは0.1%ながら減少し63.5百万袋と予想されている。アフリカおよび南米の実産量見込みはそれぞれ1.8%増の17.8百万袋と4.3%増の79.94百万袋である。アジア・オセアニアの実産量は2.1%減の48.01百万袋、またメキシコ・中米は0.5%減の21.72百万袋の見込みである。

ブラジルは引き続き世界最大のコーヒー生産国であり、2019/20（4月～3月ベース）クロープイヤーには58.5百万袋の実産量が想定されている。ICO事務局は、ブラジル国家食料供給公社（CONAB）の直近予想に基づき2018/19年度の実産量見込みを改定し1.2百万袋増の61.7百万袋とした。2018/19コーヒー年度の世界コーヒー生産量見込みには、ブラジルのクロープイヤーにおける2018/19と2019/20とが部分的に含まれる。ブラジルの2018年4月から11月の輸出量は23.39百万袋で2017年の同期間を18%上回り、8ヶ月間（4-11月）の輸出数量としては過去10年で最大であることから生産量見込みの増額改定の裏付けとなっている。

ベトナムの生産量は2018/19年度、前年比3.4%減の29.5百万袋と予想されている。気候不順などによるイールドの悪化によるものだが、新耕作地の生産拡大によりイールド悪化をある程度相殺することが期待されている。2017/18年度は堅調な輸出量増加を背景に1.04百万袋上方修正の30.54百万袋と改定された。2017/18年度の輸出数量は前年比21.7%増の28.64百万袋だった。2018/19年度最初の2ヶ月における輸出量は前年同期比32.7%増の4.1百万袋だが、この輸出量には前年2017/18年度からの繰越在庫も含まれている。

コロンビアの生産量は2017/18年度の13.82百万袋に続き2018/19年度は14.2百万袋と予想されている。過大な降雨と曇天が2017/18年度の生産を減少させたが、同様に2018/19年度最初の3ヶ月にも影響しており、この期間の生産量は前年同期比6.6%減の3.67百万袋である。しかしながら、*mitaca crop* の時期に好天に恵まれれば年度後半の生産量増加も有り得る。2018/19年度最初の2ヶ月での輸出量は2.3百万袋で前年同期の2.28百万袋から僅かながら改善し、2018年11月の輸出量は1.24百万袋で2017年11月を6.7%上回っている。

図 5: クロップイヤーと生産量



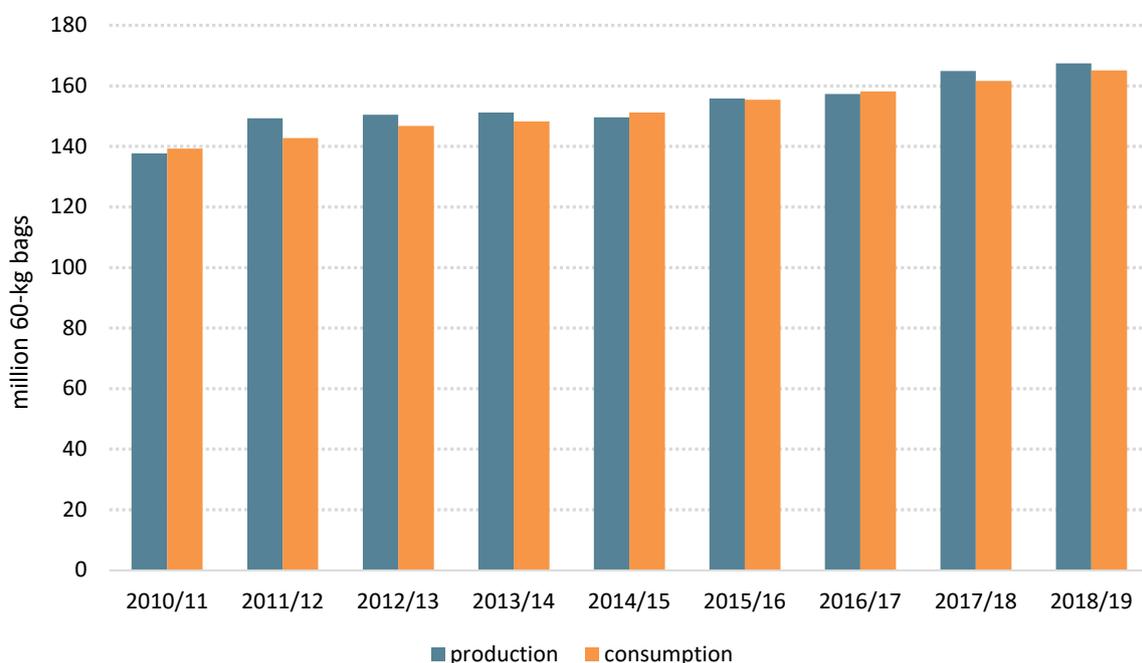
インドネシアは2018/19クロープイヤー（4月～3月ベース）に10.2百万袋の生産量が見込まれ2017/18対比5.6%減である。2018/19年度クロープは既に収穫済みであり輸出向けコーヒーの大半が国際市場に出ている。4月から11月までの2018/19クロープイヤー最初8か月の輸出量は3.36百万袋で2017/18同期間対比44.4%減、2016/17年度対比でも25.2%減である。国内消費の拡大が輸出量の減少を招いているが同時に生産量自体の縮小も示唆している。

エチオピアの2018/19年度生産量は7.5百万袋と予想され、2017/18年度対比0.6%増である。2011/12年度と2012/13年度の2シーズン連続の生産量減少を経て以降、安定して生産量を拡大している。更なる生産量拡大の阻害要因としては、弱体な営農マネジメント、コーヒー樹齢の老化、異常気象がある。2018/19年度の2ヶ月目にあたる2018年11月単月の輸出量は2017年11月対比17.6%減の233,458袋であるが、2018年10月の輸出量が相対的に大きかったため2018/19年度最初の2ヶ月では前年対比6.6%増の597,160袋である。

ホンジュラスは4シーズン連続の生産拡大後、2018/19年度生産量は前年対比1.5%減の7.45百万袋と予想されている。生産コストのアップ、特に労務費の上昇と国際コーヒー価格の低迷がホンジュラスの生産量拡大の障害となっている。2018年11月の輸出量は2017年11月対比31.2%減の113,896袋だった。10月と通算した2018/19年度最初の2ヶ月における輸出量でも前年対比1.2%減の214,950袋である。

インドは大雨と洪水による影響から2018/19年度の世界生産量は前年対比10.5%減の5.2百万袋と予想されている。この生産量減少は輸出量にも反映しており2018/19年度最初の2ヶ月における輸出量は0.82百万袋、2017/18年度同期間は1.01百万袋だった。11月単月の輸出量は前年対比35.4%減の365,163袋だった。

図 6: コーヒー年度別の世界生産量と世界需要



2018/19年度の世界コーヒー消費量は2017/18年度対比2.1%増の165.19百万袋と推定されている。コーヒー輸出国の国内消費量が1.4%増の50.3百万袋、またコーヒー輸入国での消費量が2.5%増の114.88百万袋である。伝統的なコーヒー輸入国以外の国々の需要が拡大しており2018/19年度の世界コーヒー消費量に占める割合は概ね18%に及んでいる。アフリカおよびアジア・オセアニアの消費量は共に4.1%増加し、それぞれ12.23百万袋および36.25百万袋を消費している。これら地域では輸入国における新たな消費市場だけでなく、生産国における国内需要の増加が見られる。

伝統的な輸入国である欧州と北米での消費需要はそれぞれ1%増の53.51百万袋、2.5%増の30.73百万袋と見込まれる。南米の消費は0.9%増の27.22百万袋、一方メキシコ・中米は前年並みの5.23百万袋と予想されている。

ICO事務局は2017/18コーヒー年度の世界生産数量を改定し10月マーケットレポート以降（記者注：12月以降、の誤植と思われる）、世界の供給過剰数量を3.28百万袋としている。**2018/19年度の供給過剰数量は2.29百万袋と推定される。**生産過剰数量は2018/19年度で減少するものの2年連続の供給過剰は目先の国際コーヒー価格にとって重石となろう。

表 1: ICO 指標価格と先物価格 (US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
Dec-17	114.00	141.62	137.42	121.47	87.59	125.25	78.30
Jan-18	115.60	143.77	138.81	123.67	88.65	127.65	78.90
Feb-18	114.19	141.50	136.28	120.83	89.24	123.82	80.38
Mar-18	112.99	139.45	135.03	119.80	88.18	121.66	79.86
Apr-18	112.56	139.29	134.34	118.76	88.31	120.17	79.36
May-18	113.34	140.26	135.61	119.57	88.74	122.50	79.85
Jun-18	110.44	138.55	134.03	115.10	86.07	120.19	77.40
Jul-18	107.20	133.92	130.60	110.54	84.42	114.06	75.56
Aug-18	102.41	129.99	125.21	104.46	80.74	108.12	71.94
Sep-18	98.17	125.74	121.18	99.87	76.70	102.83	68.03
Oct-18	111.21	140.83	137.34	115.59	85.32	119.73	77.16
Nov-18	109.59	139.27	137.11	113.27	83.52	117.06	75.23
Dec-18	100.61	127.86	127.10	102.10	77.57	105.79	69.59
% change between Nov-18 and Dec-18							
	-8.2%	-8.2%	-7.3%	-9.9%	-7.1%	-9.6%	-7.5%
Volatility (%)							
Dec-18	6.9%	7.3%	8.1%	9.5%	4.6%	10.4%	5.3%
Nov-18	7.2%	7.8%	8.0%	9.2%	5.8%	10.7%	6.5%
Variation between Nov-18 and Dec-18							
	-1.6	-1.7	-1.9	-1.7	-1.0	-1.9	-1.4

* Average price for 2nd and 3rd positions

表 2: 価格差 (US cents/lb)

	Colombian Milds	Colombian Milds	Colombian Milds	Other Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	New York*
	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	Brazilian Naturals	Robustas	Robustas	London*
Nov-17	4.20	20.15	54.03	15.95	49.83	33.88	46.95
Dec-17	4.96	20.10	55.12	15.14	50.16	35.02	48.75
Jan-18	5.22	20.67	52.26	15.45	47.04	31.59	43.44
Feb-18	4.42	19.65	51.27	15.23	46.85	31.62	41.80
Mar-18	4.95	20.53	50.98	15.58	46.03	30.45	40.81
Apr-18	4.65	20.69	51.52	16.04	46.87	30.83	42.65
May-18	4.52	23.45	52.48	18.93	47.96	29.03	42.79
Jun-18	3.32	23.38	49.50	20.06	46.18	26.12	38.50
Jul-18	4.78	25.53	49.25	20.75	44.47	23.72	36.18
Aug-18	4.56	25.87	49.04	21.31	44.48	23.17	34.80
Sep-18	3.49	25.24	55.51	21.75	52.02	30.27	42.57
Oct-18	2.16	26.00	55.75	23.84	53.59	29.75	41.83
Nov-18	0.76	25.76	50.29	25.00	49.53	24.53	36.20
% change between Nov-18 and Dec-18							
	-64.8%	-0.9%	-9.8%	4.9%	-7.6%	-17.5%	-13.5%

* Average price for 2nd and 3rd positions

表 3: 世界コーヒー需給バランス

Coffee year commencing	2014	2015	2016	2017	2018*	% change 2017-18
PRODUCTION	149 609	155 880	157 399	164 994	167 472	1.5%
Arabica	87 828	95 087	100 590	101 442	104 009	2.5%
Robusta	61 865	60 843	56 810	63 551	63 500	-0.1%
Africa	15 983	15 734	16 718	17 484	17 799	1.8%
Asia & Oceania	46 274	49 323	45 299	49 059	48 009	-2.1%
Mexico & Central America	17 188	17 237	20 466	21 829	21 720	-0.5%
South America	70 164	73 586	74 916	76 622	79 944	4.3%
CONSUMPTION	151 223	155 443	158 231	161 715	165 185	2.1%
Exporting countries	46 505	47 500	48 458	49 605	50 301	1.4%
Importing countries	104 718	107 943	109 773	112 110	114 883	2.5%
Africa	10 719	10 951	11 367	11 752	12 234	4.1%
Asia & Oceania	31 950	32 863	33 978	34 815	36 251	4.1%
Mexico & Central America	5 230	5 295	5 169	5 231	5 233	0.1%
Europe	51 008	52 147	52 043	52 959	53 510	1.0%
North America	27 363	28 934	29 559	29 981	30 734	2.5%
South America	24 954	25 251	26 115	26 976	27 223	0.9%
BALANCE	-1 613	438	-831	3 279	2 287	

In thousand 60-kg bags

*preliminary estimates

表 4: 輸出国のコーヒー総輸出量

	November	November	% change	October-November		
	2017	2018		2017/18	2018/19	% change
TOTAL	9 352	9 885	5.7%	18 243	20 938	14.8%
Arabicas	6 248	6 641	6.3%	12 229	13 837	13.2%
<i>Colombian Milds</i>	1 272	1 374	8.0%	2 474	2 522	2.0%
<i>Other Milds</i>	1 725	1 520	-11.9%	3 405	3 391	-0.4%
<i>Brazilian Naturals</i>	3 251	3 748	15.3%	6 350	7 924	24.8%
Robustas	3 105	3 244	4.5%	6 014	7 101	18.1%

In thousand 60-kg bags

Monthly trade statistics are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 5: ニューヨークとロンドン先物市場の認証在庫

	Dec-17	Jan-18	Feb-18	Mar-18	Apr-18	May-18	Jun-18	Jul-18	Aug-18	Sep-18	Oct-18	Nov-18	Dec-18
New York	2.23	2.24	2.14	2.21	2.26	2.28	2.33	2.33	2.51	2.70	2.78	2.79	2.80
London	2.09	1.79	1.52	1.37	1.32	1.34	1.14	1.28	1.26	1.51	1.58	1.77	1.88

In million 60-kg bags

=== 海外情報トピックス ===

2019年1月の海外情報トピックスは、2018年11月の海外情報461号でご紹介したICO調査研究「Emerging Coffee Market: South and East Asia」について、ICOから改定版が開示されたことから改めて海外情報トピックスとしてご案内します。

改定の背景としては、中国に関するデータ見直し他とのことでした。

『同国がICOメンバー国でないことからこれまで「推定 (estimates)」に拠っていた。推定手法は折に触れ見直しているが、最近これを実施したためである。今回改定においてはFAO（国連食糧農業機関）データを新たに組み込んでいる。』

『ICOはHP（Statistics-Historical）にて国別コーヒー消費量データを対象国を限定して開示している。これらデータは（修正変更等の）新情報を入手するつど内部でのアップデートしている』（以上、ICO事務局）

変更箇所は以下の通りです。

○改定された文章/項番（改定箇所は朱書）

- ・ 項番 10
- ・ 項番 21
- ・ 項番 22
- ・ 項番 24

○改定された図表

- ・ Figure 3: Coffee consumption 1992/93 - 2016/17
- ・ Figure 4: Coffee consumption in traditional markets 1992/93 - 2016/17
- ・ Figure 8: Fresh coffee consumption 2003 - 2017
- ・ Figure 9: Fresh coffee consumption per capita (population aged 15 and above)
- ・ Figure 11: Soluble coffee consumption 2003 - 2017
- ・ Figure 12: Soluble coffee consumption per capita (population aged 15 and above)

会員各位のご参考となれば幸いです。



新興コーヒー市場：南アジアおよび東アジア

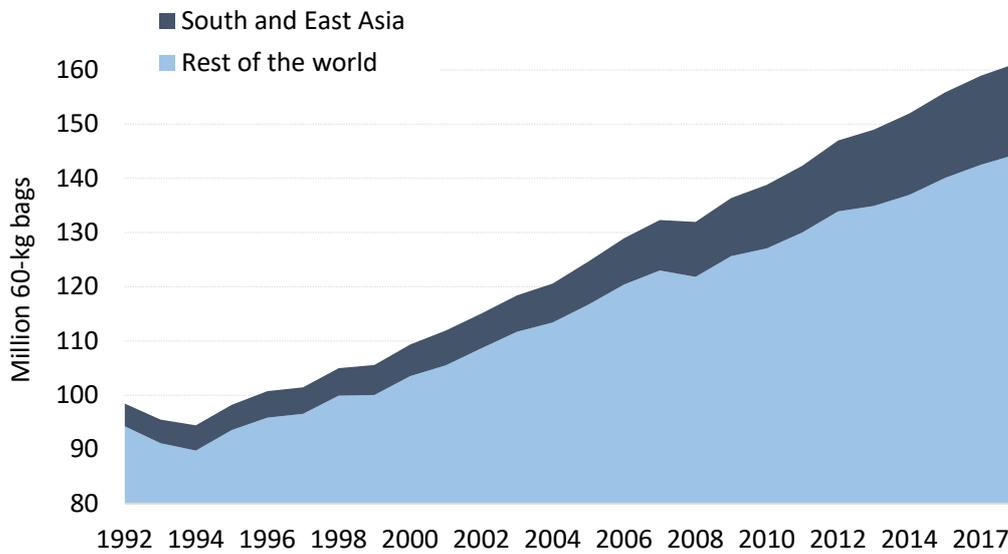
I. イントロダクション

1. 世界のコーヒー市場は過去20年間で60%以上その規模を拡大し消費量は1990年代前半の98百万袋から2016/17年度は161百万袋に達した。
2. この間、コーヒーの世界的需要拠点は、欧州連合（EU）、アメリカ、日本などの既存成熟市場の範囲を大幅に超えて拡大している。コーヒー輸出国では国内消費が増加しているが伝統的に茶を消費する国々であった新興市場では濃い味のコーヒーが普及しコーヒー生産者に新たな市場機会を提供している。
3. 本調査の目的は、南/東アジア地域におけるコーヒー消費の展開について包括的なイメージを提示することである。このレポートで調査された7つの市場は中国、インド、インドネシア、フィリピン、韓国、台湾、ベトナムである。インド、インドネシア、フィリピン、ベトナムの4カ国で南/東アジアのICOメンバーが生産するコーヒーの95%を占め、同時にコーヒー消費国としての重要性を増している。中国、韓国、台湾は非加盟国であり、コーヒー純輸入国である。「南/東アジア」または「(この)地域」という用語は本書中、この7つの国と地域におけるコーヒー市場を指すために使用する。
4. この調査では、タイプ（アラビカ、ロブスタ）と形態（生豆、焙煎、インスタント）による輸入パターンの詳細な分析に加え、セグメント別の消費動向（レギュラーおよびインスタント）と共に地域のコーヒー消費の展開を検証する。
5. 図1は、世界のコーヒー消費量の推移を南/東アジア諸国とその他の2つのグループに分けて示している。この地域のコーヒー消費量は、1992/93年度から2016/17年度の間年率平均6%の高率で増加しているがその他は年間2%増に留まっている。また各年度がプラスの成長である。2007～2008年の世界的な金融危機の後、コーヒー消費量の年間成長率は、その他は年率平均で1%まで低下したが、南/東アジアは年平均6%の成長率を維持しており、これは同じ期間の実質GDP成長率に近似している。

¹ The term 'country' is used in a broad sense for what are officially classed as 'customs territories', but which may not be countries in the usual sense of the word. The denomination and classification used herein do not imply, on the part of the ICO, any judgement as to the legal or other status of any territory, or any endorsement or acceptance of any boundary.

² This study uses consumption estimates and export data collected by the ICO from Member countries, with import data derived from the reported exports. Export data records all trade transactions at market level, from origin to destination countries. In addition, shares of consumption segments (fresh coffee and soluble coffee) were calculated using a database acquired from Euromonitor International (Euromonitor International - Hot Drinks, 2018 edition).

Figure 1: World coffee consumption 1992/93 - 2016/17

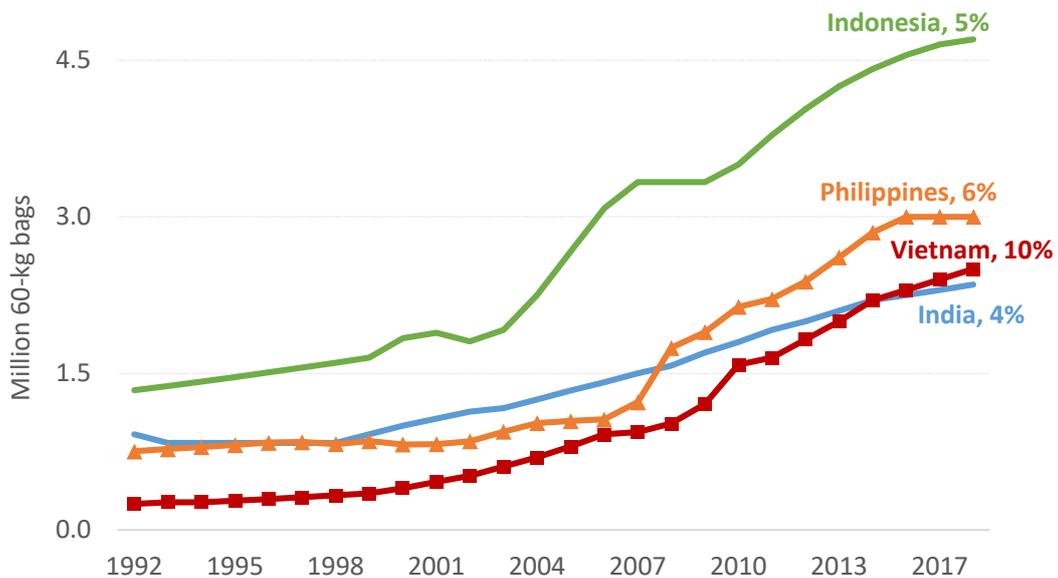


Source: ICO

6. 南/東アジアコーヒー市場ではこの期間の加速的な消費の伸びにより期間全体で消費が4倍増となったのに対してその他は56%増である。南/東アジアの急速な成長の結果、世界のコーヒー消費におけるシェアは、90年代初めの5%から現在の12%に増加した。

7. 南/東アジアの個々の市場を詳しく見ると図2の通り、この地域の各ICO加盟国がそれぞれ国内消費を伸ばしている。4つの市場全体でコーヒー消費量が急増し3.3百万袋から11.4百万袋へとおよそ4倍になっている。

Figure 2: Domestic consumption of coffee 1992/93 - 2016/17



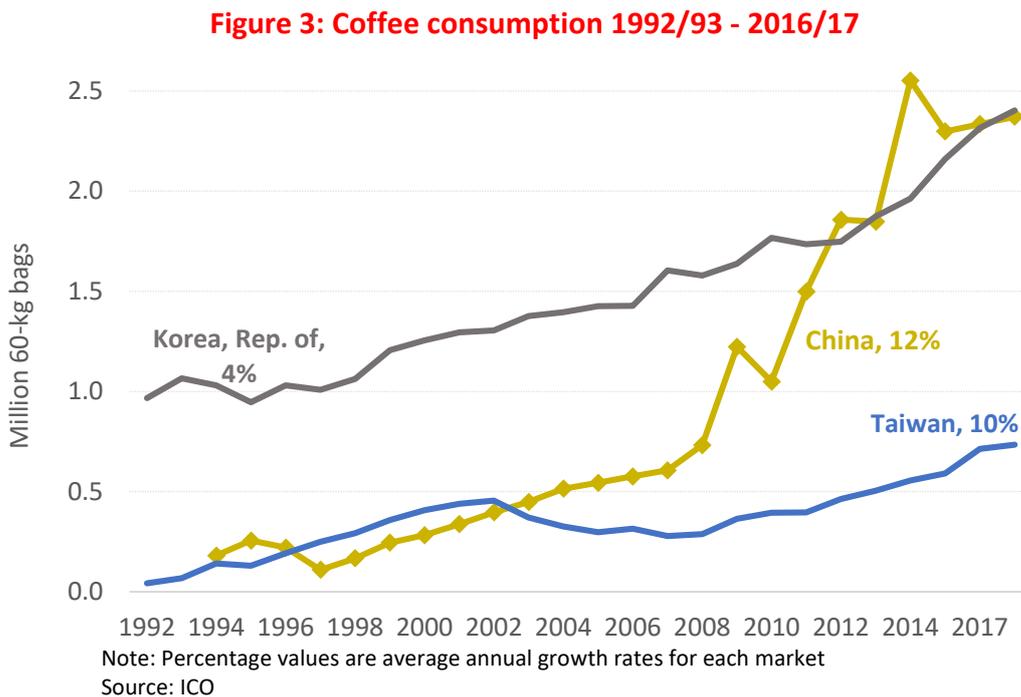
Note: Percentage values are average annual growth rates for each market

Source: ICO

8. これらの4カ国の中で、ベトナム市場が最も高い成長を遂げており、コーヒー消費量は90年代初めの7倍になった。年率平均10%の顕著なコーヒー消費量増加により近年インドのコーヒー消費量を上回っているが（図2）、15歳以上の人口はインドの同年齢人口のわずか8%である。この地域ではインドネシアのコーヒー消費量が最も多く、2016/17年度では4.7百万袋と推定されている。

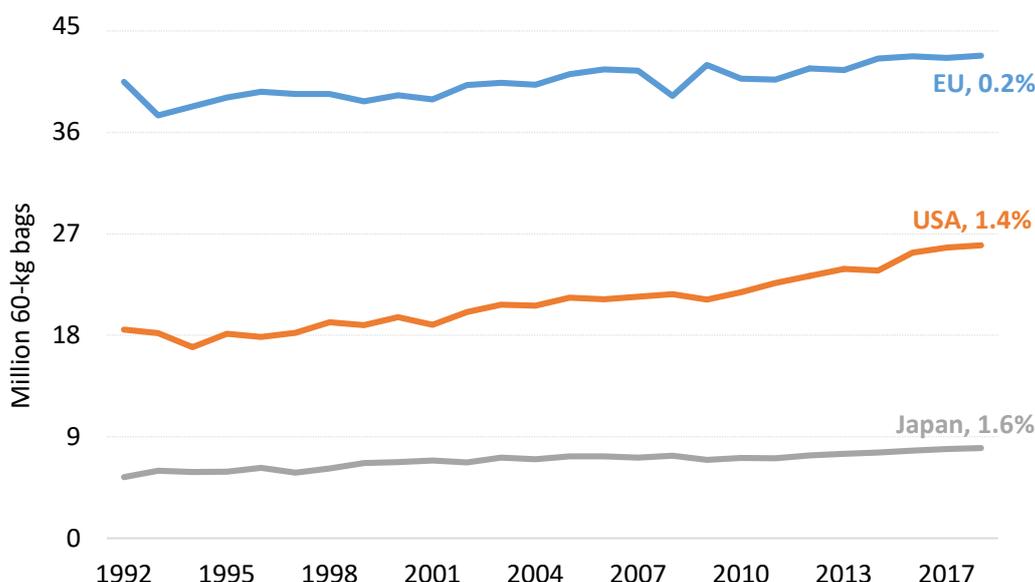
9. 図3は、中国、韓国、台湾のコーヒー消費量の推移を示している。1992年から2017年までの25年間でこれらの市場でのコーヒーの消費量は4倍を超えて増加し成長率は年率平均6%である。

10. 90年代初めからのコーヒー消費量伸び率が最も高いのは中国で次が台湾であり成長率は年率平均でそれぞれ12%と10%となっているが（図3）、同期間の韓国の総消費量は2倍になっている。



11. 比較すると、伝統的市場である地域内の「日本」およびその他の「欧州連合および米国」のコーヒー消費量は、1992年から2017年までの期間で19%増加し、成長率の年率平均は1%である（図4）。

Figure 4: Coffee consumption in traditional markets 1992/93 - 2016/17



Note: Percentage values are average annual growth rates for each market
Source: ICO

II. 輸 入

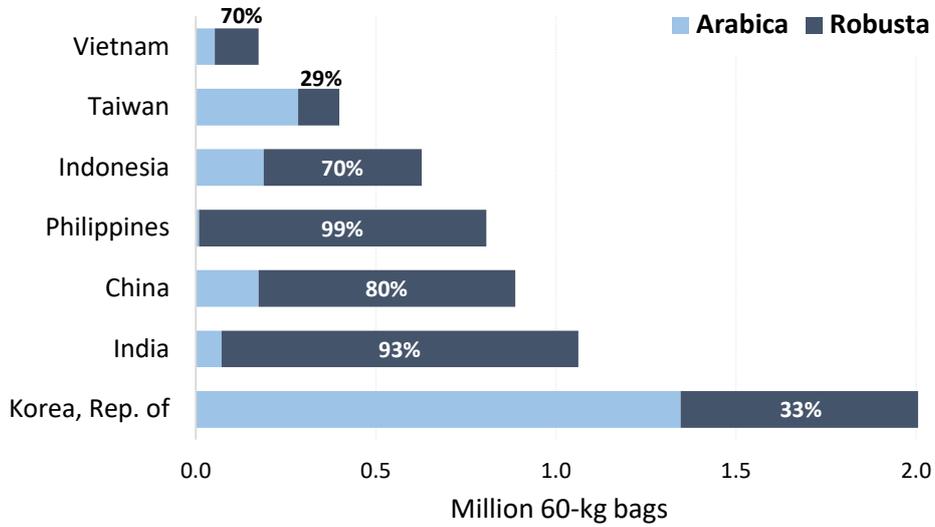
12. 本セクションではこの地域におけるコーヒーの輸入動向について検証する。ベトナム、インド、インドネシアは重要なコーヒー生産国であり輸出国であるが、アラビカコーヒーに対する国内消費需要を満たすため（ロブスタ生産国の場合）、特定オリジンのアラビカコーヒーを輸入しているが、これはレギュラーコーヒーおよびインスタント加工産業セクターニーズを満たすためのものである。

13. 韓国、台湾、中国、フィリピンは、主として輸入国またはコーヒー純輸入国である。したがって、コーヒーのタイプ別および形態別の輸入動向の検証は国内消費を理解するうえで重要である。

A. コーヒーのタイプ別輸入

14. 図5は、この地域における各市場の2012年から2016年までの平均コーヒー輸入量を示している。平均すると南/東アジアに輸入されたコーヒーの64%はロブスタだった。多くの市場ではロブスタの割合が70%を超えているが、韓国と台湾は例外で輸入コーヒーの3分の2以上がアラビカである。このことは、以下の市場セグメント分析に記載されているように、レギュラーコーヒーに対するこれら市場の選好と一致している。ロブスタは主にインスタントで使用消費されるタイプであり、一方アラビカはレギュラーコーヒーとしての飲用に好まれる。したがって、ロブスタの輸入は地域で加工されインスタント形態で再輸出されるためでもある。

Figure 5: Coffee imports by type, average volume 2012-2016

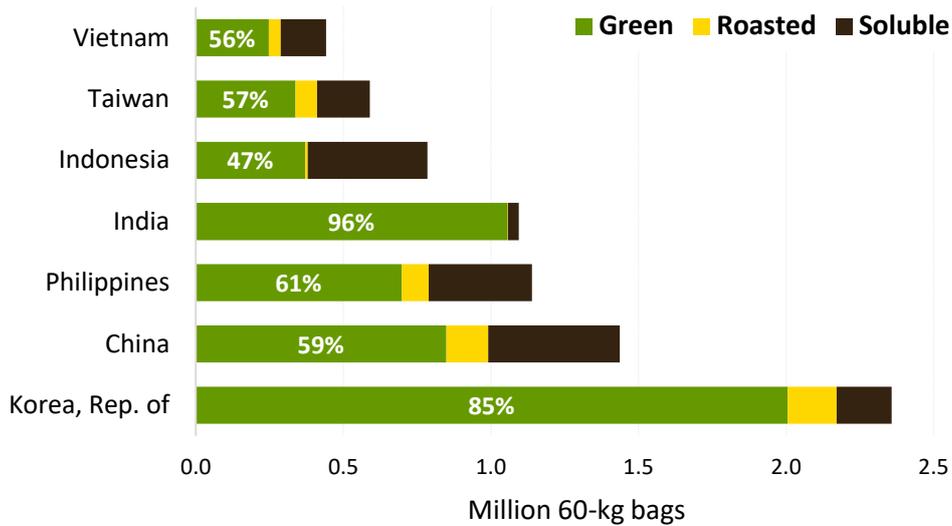


Source: ICO

B. コーヒーの形態別輸入

15. 地域のコーヒー輸入形態を生豆、焙煎、インスタントで見ると、平均すればその70%が生豆であり（図6）、主として地域内で加工されていることを示唆している。唯一、生豆輸入が輸入全体の半分以下であるのはインドネシアで、インスタントコーヒーを中心に加工コーヒー輸入がコーヒー輸入全体の53%を占めている。

Figure 6: Coffee imports by form of coffee, average volume 2012-2016



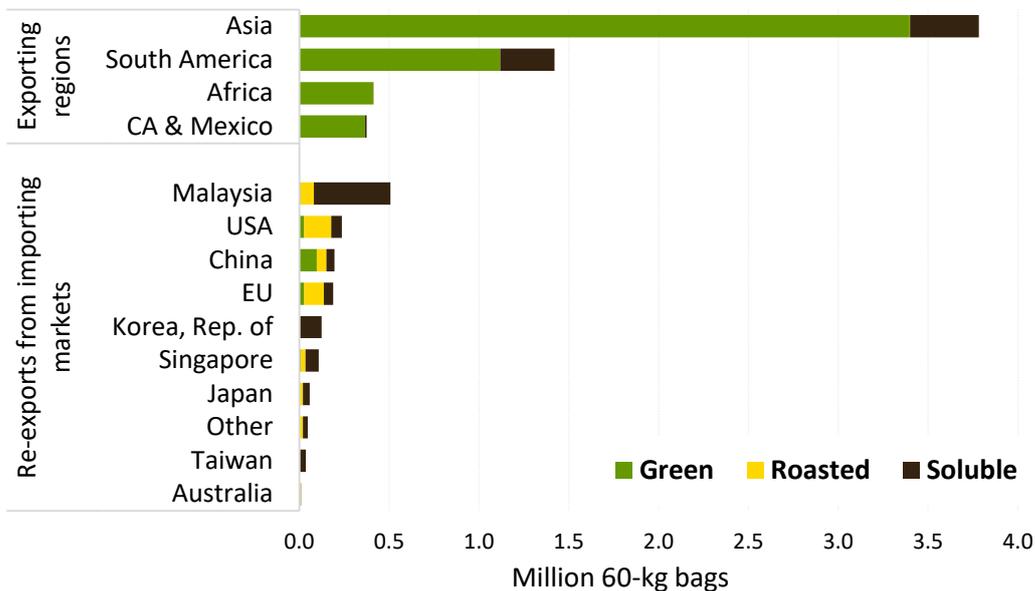
Source: ICO

16. 一般的に、生豆での輸入比率が高い理由としては、列国スケーリングすなわち加工コーヒーの関税が高い結果である可能性が高い（アネックス図A1）。これはコーヒー生豆の輸入関税が加工コーヒー関税を上回るインドを除くすべての市場に当てはまる。このことは加工処理と再輸出のためにロブスタコーヒー輸入に集中する産業モデルによっても説明できる。したがって、関税は輸出国における付加価値創出の機会や範囲に影響を与える貿易フローの重要な決定要因である。

17. 輸入コーヒーのオリジン（図7）については、コーヒー生豆の殆どが南/東アジア自身および南米地域から来ているが、同様に南/東アジア市場に輸入された加工コーヒー（焙煎およびインスタント）の3分の1はこれらの国から輸入している。地域内部の貿易総量は60-kg袋で4百万袋に達する（図A2）。図A3は域内での形態別取引を示している。

18. 南/東アジア地域に輸入される加工コーヒーの残り66%は、マーケット内での取引として生豆が生産地域から輸入され国内で加工（再輸出）される形で創出されている。この場合、インスタントコーヒーは主としてマレーシアと韓国から積替業務等により輸入され、焙煎コーヒーは主にEUと米国からの輸入である。

Figure 7. Coffee imports by form of coffee and origin, average volume 2012-2016



CA: Central America
Source: ICO

III. 市場セグメント別コーヒー消費

19. このセクションではコーヒー消費量を、マーケットセグメント別に、またレギュラーコーヒー／インスタントコーヒー別に、Euromonitor International³およびICOによる市場占有推計を用いて分析する。

A. レギュラーコーヒー

20. 2017年のこの地域のレギュラーコーヒー最大消費市場はインドネシアであり、これに続いてベトナムと韓国である。（図8）

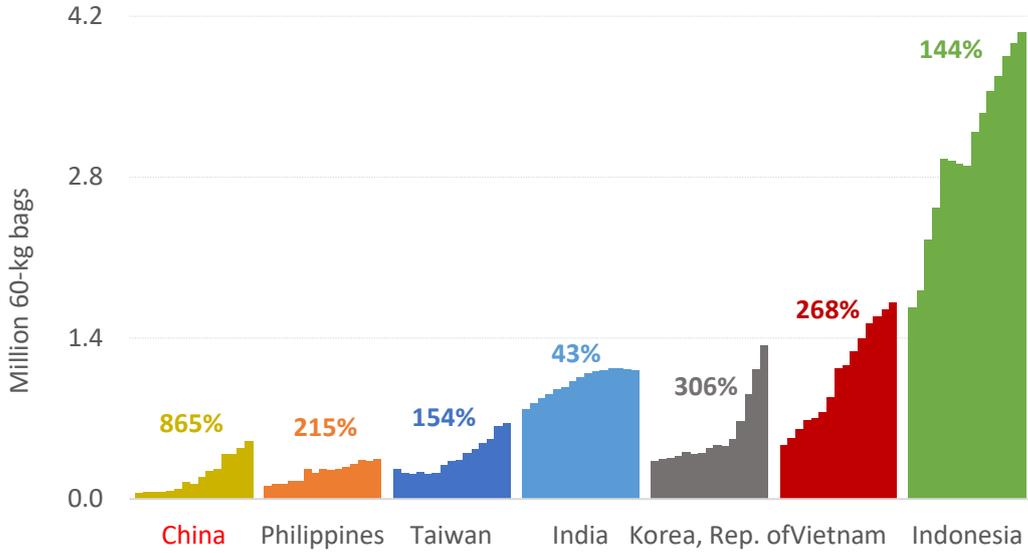
21. 図8は、2003年から2017年までの各市場におけるレギュラーコーヒー消費量の推移である。棒グラフの棒の高さは各年度の年間消費量を示している。この15年間、レギュラーコーヒー消費量は地域全体で年率平均7%増加しておりインドの3%から中国の**18%**に及ぶ。インドネシア、ベトナム、インドは一貫して伸びたが、その一方で、2013年以降は韓国が急激に伸長した。15年間で最大の伸びを記録した国（伸び率）は中国（**865%**）と韓国（306%）で、これに続いてベトナム（268%）、フィリピン（215%）である。

22. 一人当たり消費量では、台湾がレギュラーコーヒー消費をリードしており、それに続いて韓国、ベトナム、インドネシアである（図9）。一人当たりの消費量はすべての市場で増加しているが、特に台湾と韓国が最近になって飛躍的増加を示している。全体として地域のレギュラーコーヒー1人当たり消費量は年率平均7%で増加しており、中でも中国が**17%**の高い伸びを示し、韓国（9%）、ベトナム（8%）が続いている。

³ Data from Euromonitor International is estimated in tons of coffee consumed from 2003 to 2017. The data was converted into 60-kg bags of green bean equivalent (GBE) using ICO conversion factors, as defined in the Annex of the International Coffee Agreement 2007 and revised in document [ED-2123/11](#), and segment shares calculated.

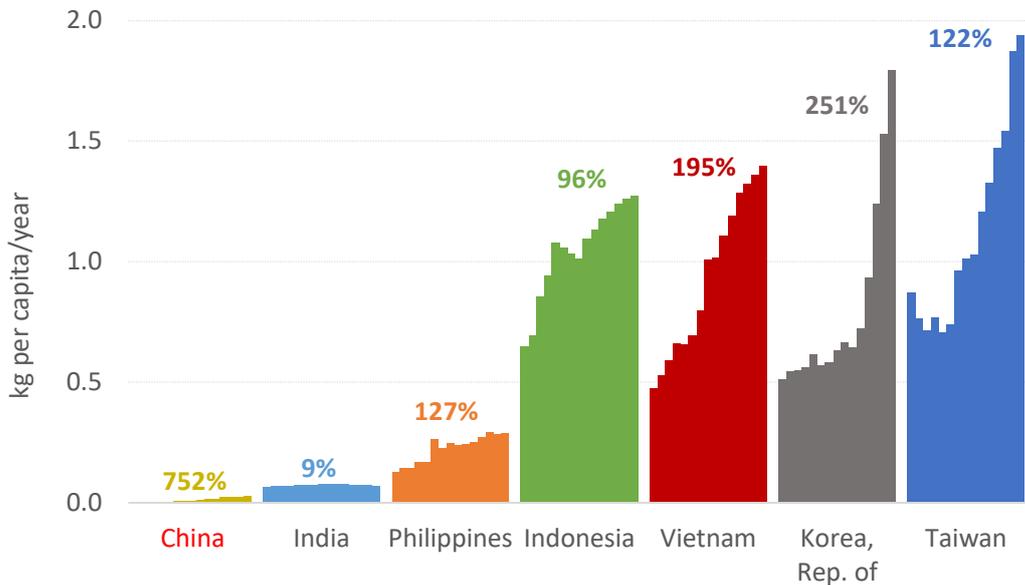
⁴ Per capita consumption is calculated using total population above 15 years old. Population data was obtained from the World Development Indicators of the World Bank, available at: <https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.1564.TO>

Figure 8: Fresh coffee consumption 2003-2017



Source: ICO and Euromonitor International - Hot Drinks, 2018 edition. ICO calculations

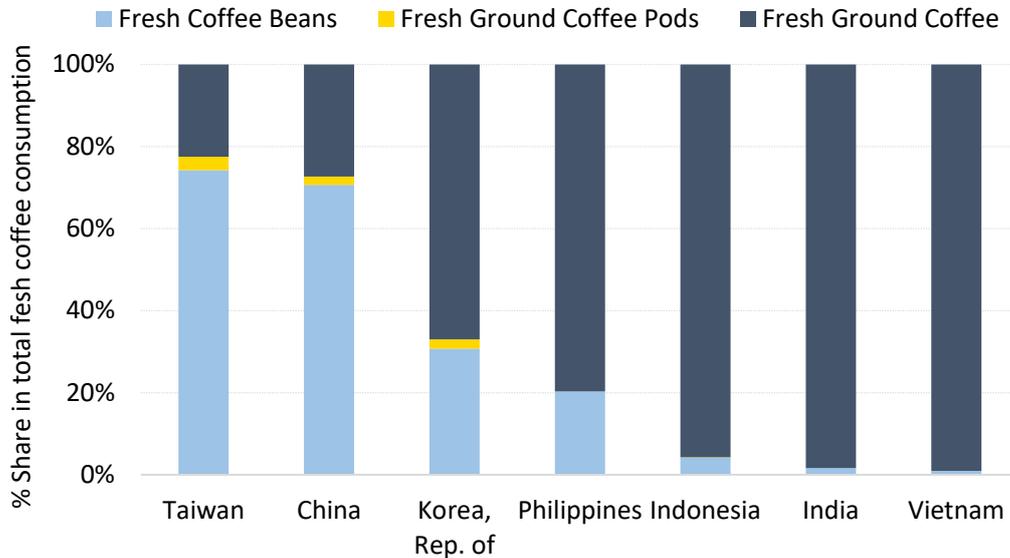
Figure 9: Fresh coffee consumption per capita (population aged 15 and above)



Source: ICO and Euromonitor International - Hot Drinks, 2018 edition. ICO calculations

23. レギュラーコーヒーは、焙煎コーヒー豆、挽いたコーヒー、またはコーヒーポッドとして消費される。台湾と中国ではレギュラーコーヒーは焙煎豆の形式で流通消費されるが、他の5つの市場では挽いたコーヒーが好まれる（図10）。中国、韓国、台湾ではコーヒーポッドが増加傾向にあるが依然として規模は小さく、この3市場平均でレギュラーコーヒー消費量の2.5%を占めるに過ぎない。

Figure 10: Fresh coffee consumption by sub-segments 2017, % share



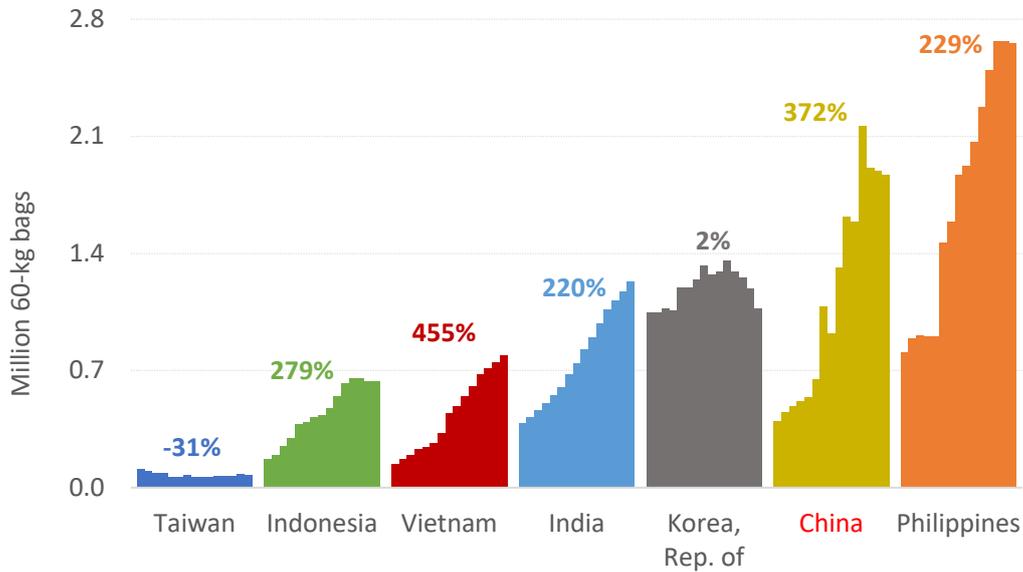
Source: ICO and Euromonitor International - Hot Drinks, 2018 edition. ICO calculations

B. インスタントコーヒー

24. ソリユールコーヒーまたはインスタントコーヒーの消費量はフィリピンで最も多く、韓国とインドがそれに続いている（図11）。過去15年間、地域のインスタントコーヒー消費は高率で増加しており、ベトナム（13%）、中国（12%）、インドネシア（10%）、フィリピン（9%）、インド（9%）となっている。しかし、この傾向は韓国と台湾においては逆で、インスタントコーヒーと比較してより高価なレギュラーコーヒーへの嗜好を示している。

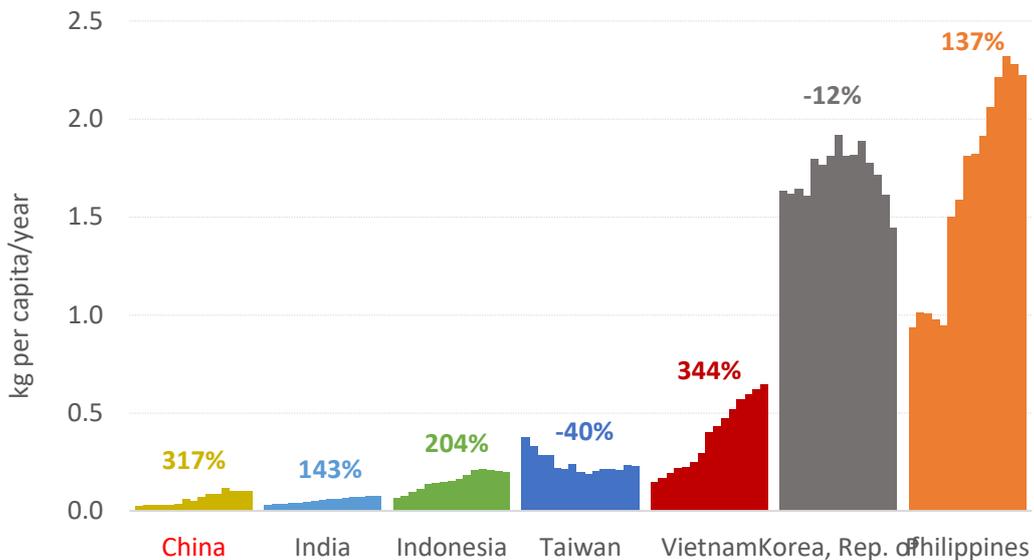
25. 一人当たり消費量ではフィリピンと韓国がインスタントコーヒー消費量をリードしておりベトナムが続いている（図12）。一方で台湾と韓国では一人当たり消費量動向でもインスタントコーヒー需要は減少を示している。ベトナム、インドネシア、インド、フィリピン、中国では着実に増加が見られるが近年、消費量の成長率は減速している模様である。これは、所得水準の上昇の結果、長期的視点で見ると消費者嗜好がレギュラーコーヒーに移行していることを示している可能性がある。すでに韓国と台湾でインスタントコーヒー消費はピークに達したと思われる、これにインドネシアとフィリピンが続いている。

Figure 11: Soluble coffee consumption 2003-2017



Source: ICO and Euromonitor International - Hot Drinks, 2018 edition. ICO calculations

Figure 12: Soluble coffee consumption per capita (population aged 15 and above)



Source: ICO and Euromonitor International - Hot Drinks, 2018 edition. ICO calculations

c. マーケットセグメント比較

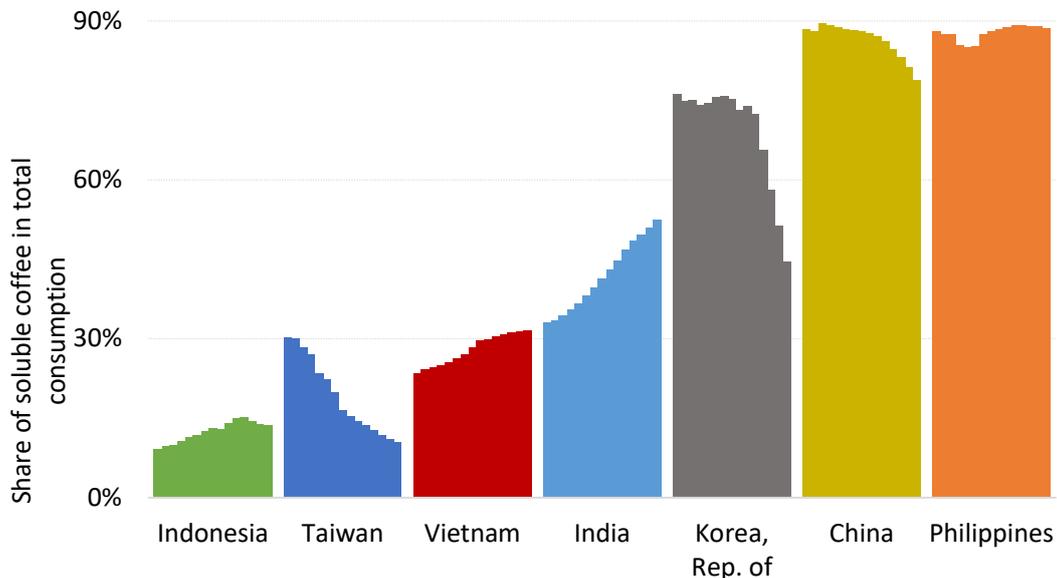
26. 図13は、南/東アジア各市場でのコーヒー消費量におけるインスタントコーヒーの割合を示している。2017年にはこの地域で消費されたコーヒーの44%がインスタントコーヒーだった。

27. 上記のセグメント分析は、主要コーヒー消費国であるインドネシアとフィリピンで、その消費パターンが大きく異なることを示している。インドネシアではレギュラーコーヒーがインスタントコーヒーよりも消費割合が大きい（86%）が、フィリピンではインスタントコーヒーがコーヒー総消費量の89%を占めている。

28. 消費者の嗜好は変化しており、いくつかの市場ではインスタントコーヒーよりもレギュラーコーヒーを嗜好している。これは、過去15年間にインスタントコーヒーのシェアがそれぞれ10%, 20%, 32% 低下した中国、台湾、韓国に当てはまる。特に中国はレギュラーコーヒー消費量がインスタントコーヒーよりも高率で増加している急拡大市場である。

29. 対照的に、ベトナムとインドではインスタントコーヒーは依然として市場シェアを獲得しており、フィリピンとインドネシアでは安定したシェアを維持している。ベトナムはこの地域のインスタントコーヒー消費伸長をリードしているが、同時にレギュラーコーヒー市場でも消費拡大の強い原動力であることを示している。インドでは主にインスタントコーヒーを中心にコーヒー消費は着実に伸びている。

Figure 13: Share of soluble coffee in total consumption 2003-2017



Source: ICO and Euromonitor International - Hot Drinks, 2018 edition. ICO calculations

30. 一人当たりでは、台湾はレギュラーコーヒー消費量が最も大きく、フィリピンはインスタントコーヒー消費需要の第一位である。レギュラーとインスタント双方を通じて地域内でコーヒー需要が最も多かったのは韓国で、2017年一人当たり消費量は3.2kgである。

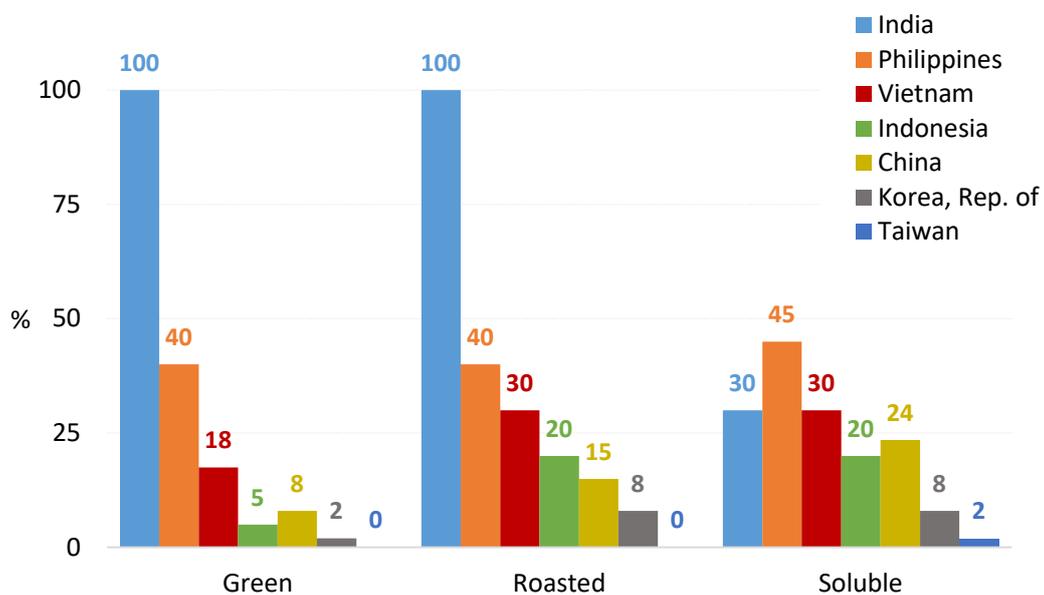
IV. 結論および所見

31. 本調査では、中国、インド、インドネシア、フィリピン、韓国、台湾、ベトナムの7つの南/東アジアの新興コーヒー市場における消費動向を分析した。2016/17年度では7市場の合計で16.8百万袋のコーヒーが消費されている。

32. 主な調査結果は次のとおり。

- (a) 南/東アジア地域の新興市場におけるコーヒー消費量は、2007～2008年の世界的な金融危機の後、コーヒー消費量の伸びが1%に低下した世界の他地域に対して、年率平均6%の高い成長を果たした結果、この地域は世界コーヒー消費シェアの12%を占めるに至った。
- (b) 2016/17年度において、インドネシアは同地域で最大のコーヒー消費国でありその消費量は4.7百万袋、一方、韓国は一人当たり3.2 kgのコーヒーを消費する主要消費国である。
- (c) この地域で輸入されるコーヒーの太宗はロブスタであるが、レギュラーコーヒー消費を嗜好する市場ではアラビカの輸入が上回っている。
- (d) 加工コーヒー200万袋がこの地域に輸入され、その3分の1はアジアと南アメリカのコーヒー生産地域からの輸入である。域内貿易としてはアジアからのコーヒー輸入が主にベトナム、インドネシア、インドからであることを示している。焙煎コーヒーは主に米国やEUなどの伝統的な市場から輸入されている。
- (e) 消費者の嗜好は変化しており、インスタントコーヒーが伝統的に消費されてきた市場でもレギュラーコーヒー嗜好が認められる。インスタントコーヒー消費は韓国と台湾でピークを迎えておりインドネシアとフィリピンがこれに続くものと見られる。レギュラーコーヒーが増えるにつれてインスタントコーヒーは更に減少すると予想される。
- (f) ベトナムは、地域内のインスタントコーヒーの成長をリードしているが、レギュラーコーヒー消費においても強い原動力であることを示している。インドでは主にインスタントコーヒーの消費によりコーヒー消費が着実に伸びている。

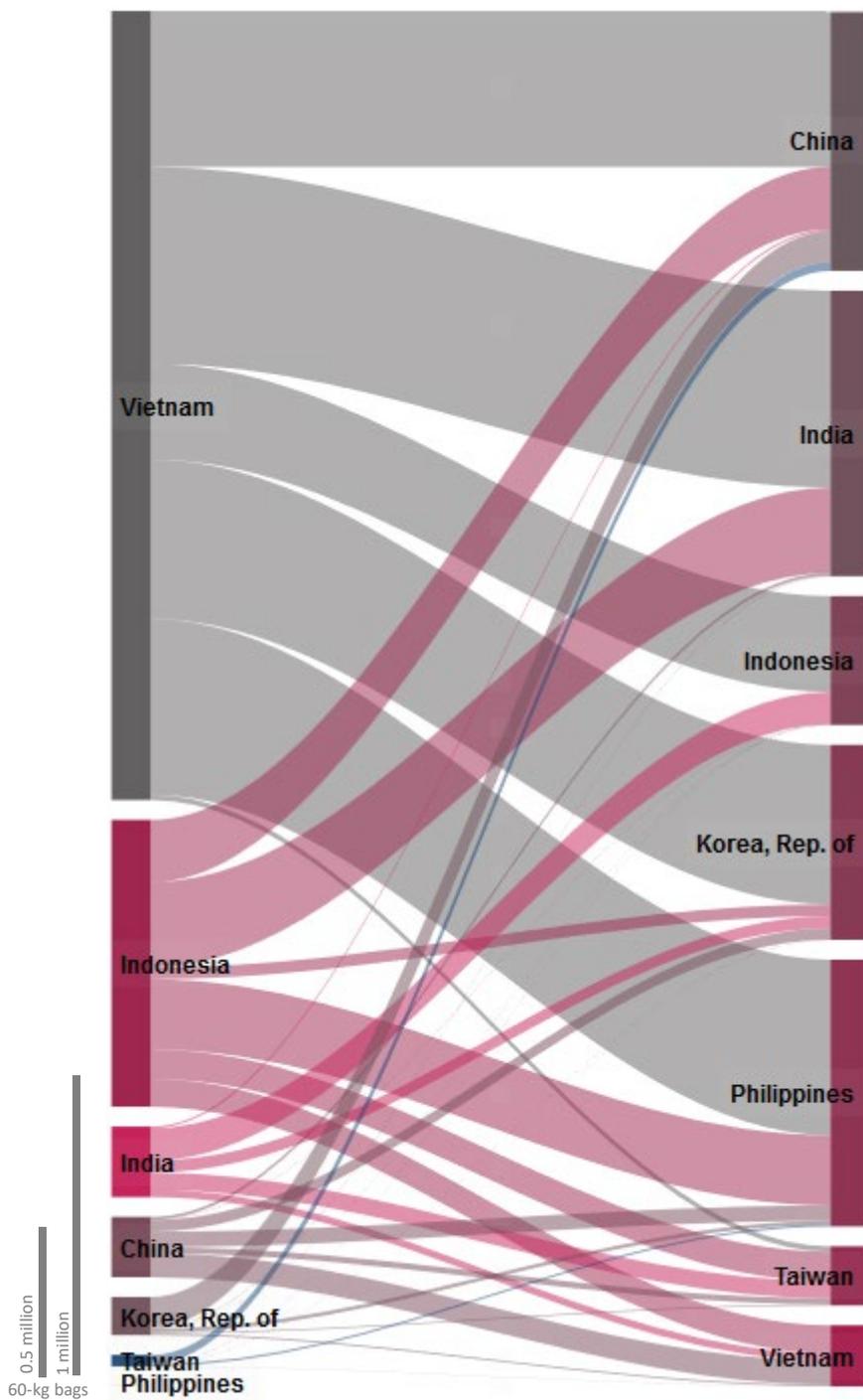
Figure A1. MFN (Most Favored Nation) tariff level for coffee, 2017



Note: Indonesian data is for 2016

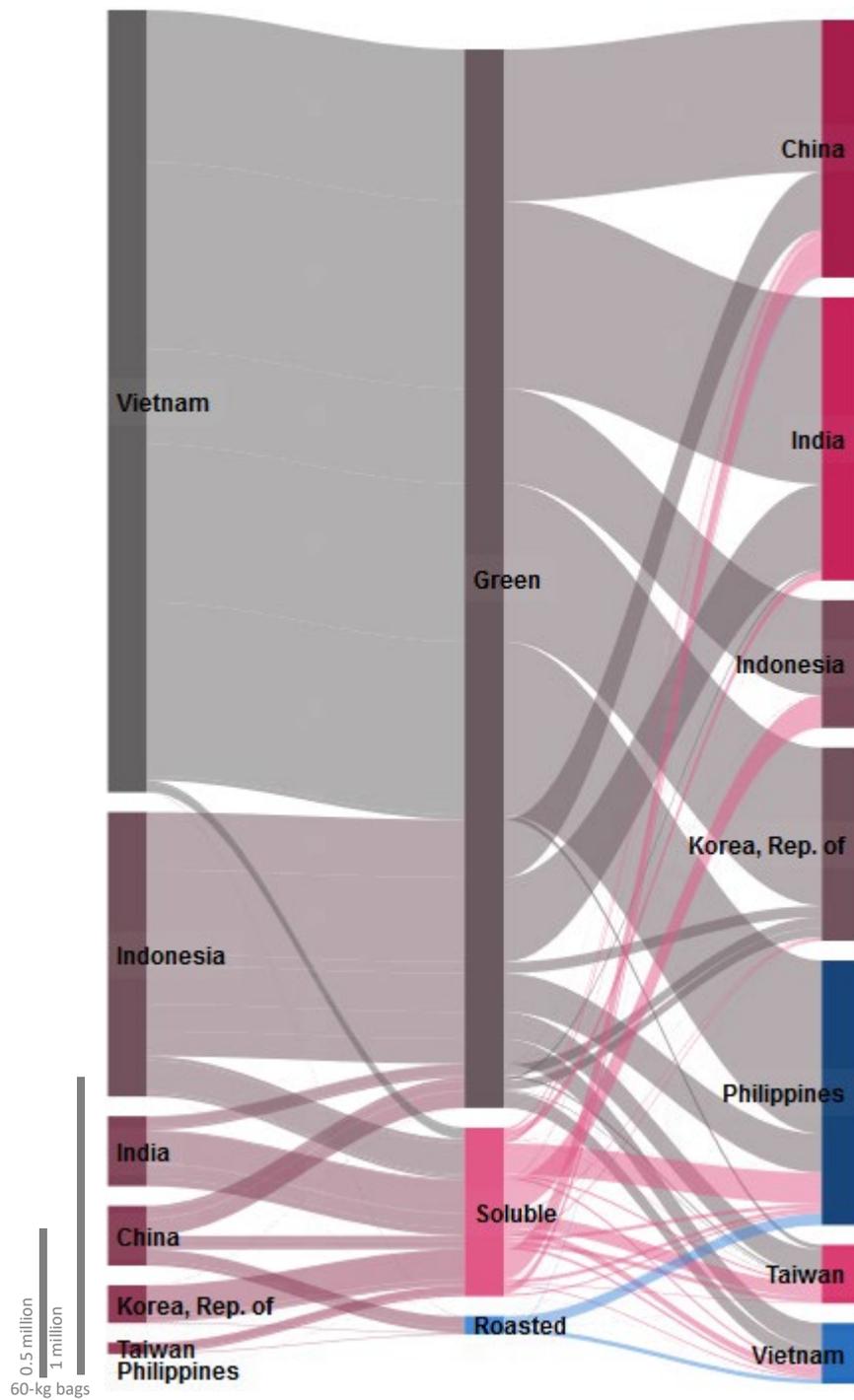
Source: WTO - Tariff Download Facility, <http://tariffdata.wto.org>

Figure A2. Inter-trade South and East Asia 2012-2016



Source: ICO

Figure A3. Inter-trade South and East Asia by form of coffee 2012-2016



Source: ICO